

ARAI NEWS

Actual Story From Inside.

メッセージ・フロム



at

東京モーターショー 未来を創造するヘルメットを発表

ARAIが世界中のヘルメットメーカーの根本となつて、それまでの流れを変えてしまったようなことが何度かあります。例えば

1981年4月に発表したOMNI、それまでのヘルメットの常識と書くと、ヨーロッパのプラスチック製のものはファッショニ性はそこ

そこだが、安全性についてほとんど不安があり、

一方、国産やアメリカのFRP製は、白い帽体にホック式のシールドで代表されるように、安全性についてはプラスチック製よりあるものの、

使い易さとファッショニ性では今一歩だと言われていました。このような常識を打ち破り、

頑丈なFRP製の帽体にホルダータイプのワンタッチシールドと斬新なグラフィックデザインを採用したヘルメットがOMNIでした。このホルダータイプのシールドは世界中のヘルメットメーカーの根本となり、現在有る世界中のホルダーを採用したシールドシステムはなんらか

のカチでOMNIを参考としています。また、グラフィックデザインもその後のレーサーレプリカ等に代表されるような美しい塗装仕上げに発展して、ヘルメットがライダーの顔としての役割を果たすようになりました。

他の例では、MXタイプのヘルメットがあります。アライが提案した前後上下どこでも好きな場所に固定することの出

来るマウスガードタイプのヘルメットは多くのヨーロッパメーカーの根本となっています。

安全性や振り心地だけでなく、ファッショニ性や操作性も、年毎に次第に進歩していつていますが、OMNIやMXのように世の中の流れを大きく変えるのは、

そうたやすいことではありません。単なる奇抜な発想だけではヘルメットの流れを変えるようなことはできません。かつてファッショニ性を優先させた変形したフォルムを持つヘルメットが、世界中の

あちらこちらで登場し、これからはスタイル優先の時代が来るのではないかといわれたような時代もありました。この時も、アライではやはりヘルメットは安心できるものでなければならぬと考え、

固くならぬまでに頭に対して自然な形状を守り続けてきました。そして、しばらくたつと潮が引く様に変形ヘルメットはなくなっていました。

このようにお話ししてくると、アライはひとつの形、ひとつの方法にずっとこだわりのつづけているガンコなメーカーと思われるでしょう。

でも、皆さんが今度の東京モーターショーのアライコーナーにいらつしやれば、ちよつと驚くかも知れません。詳しい内容は、まだお話しできないのが残念ですが、アライが単なるガンコ者とは基本的に違うメーカーであることがお判りになるようなコーナーになっています。

安心をカタチにできるアライでは、ひとつのアライ製品が生まれてくる背景には、実はとてつもない可能性の追求と試行錯誤がくり広げられています。例えば、空力をギリギリまで追求して

いった結果、帽体だけでなくシールド自体も大胆な形状となり、しかも走つてみるとリフト風切音が全く存在しなくなつたのかと錯覚してしまうようなすこいモデル或いはバイクライフに新次元の楽しみをもたらすシステムもすでに開発しています。

ただアライが今までこれらのモデルを最新製品として発表しなかつたのは、ほんのわずかな要素でも、納得できない部分があつたからです。

とにかくアライは安心にこだわるのです。同時に、数多くの可能性をカタチに変えています。

こんなアライが、皆さんのバイクライフをより豊かにするヘルメットの新しいシステムを開発しました。もしかしたら世界中のヘルメットの流れを再び変えるかも知れない新しいヘルメットのシステムをお目にかけます。——その発表は、

10月29日から11月9日にかけて行なわれる東京モーターショーのオートバイ館にあるアライコーナーで行なわれます。

その他にも今までアライが作つて来た発売直前まで完成されたもので、発売出来なかつた商品についてもショーアップしてご説明いたします。アライコーナーはみなさんに未来をお届するコーナーです。是非ご来場下さい。

